

富士山火山防災マップの見方と使い方

配布したマップを活用しましょう

4月に全戸配布した「裾野市富士山火山防災マップ」は、富士山火山対策協議会が公表した富士山ハザードマップ改定（令和3年3月）を踏まえ作成しました。想定される火山活動により、どのような火山現象が起これ、どの範囲までどのような影響が及ぶのかを知り、自らの安全を確保するためにはどう対処すればよいのかを認識していただくためのものです。

☎危機管理課 995-1817

災害発生の可能性マップ

溶岩流、噴石、火砕流などの火山現象がおよぶ範囲を現象ごとに示した領域図です。可能性領域を示す性格から「可能性マップ」と呼ばれています。



各火山現象の特徴を知る

富士山ハザードマップの対象としている火山現象について、特徴と注意点を記載しています。

▶ 早めの避難が必要なもの、生命にかかわるものなど、平常時からその違いを知っておくことが、いざという時の避難の備えとして重要です。

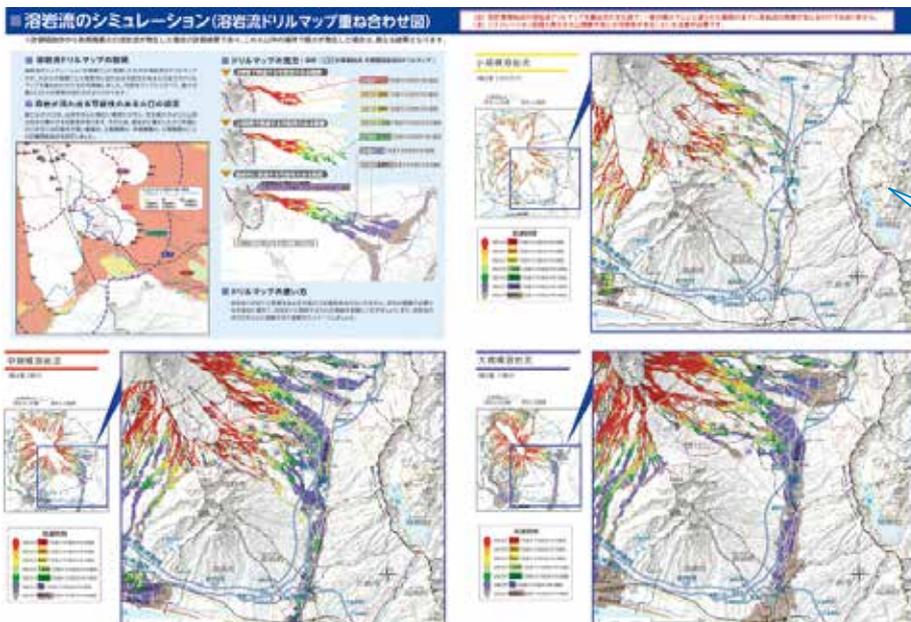
溶岩流(可能性マップ)

溶岩流に対していずれ避難が必要となる可能性があるかどうかを知ることができます。

▶ お住まいによって早めの避難が必要でない場合でもいずれ避難が必要になる可能性があります。到達時間の目安と合わせて把握しておきましょう。

溶岩流のシミュレーション(溶岩流ドリルマップの重ね合わせ図)

噴火口の位置や溶岩流の流れ方をもとに避難方法をイメージすることができます。地形に応じてどのように溶岩流が広がるのか、噴火の規模（大・中・小）ごと、可能性のある火口位置ごとに示したものです。可能性マップとくらべて、個々の噴火口からの実際の流れがよくわかります。



▶ お住まいの近くに影響を及ぼす噴火口は複数あるかもしれません。早めの避難が必要となる場合に備え、お住まいに関する火口の範囲を把握しておきましょう。また、溶岩流の流れ方をもとに避難方向や避難先もイメージしましょう。